

総合工学委員会 原子力安全に関する分科会
研究用原子炉の在り方検討小委員会（第 24 期・第 1 回）
議事メモ

日時：平成 30 年 5 月 22 日（火） 15:00 - 17:00

場所：日本学術会議 6 階 6-A(1)会議室

出席者：柴田徳思、上坂充、中嶋英雄、矢川元基、内田俊介、海老原充、大沼正人、小原徹、楠剛、柴山充弘、永井康介、林眞琴、山本章夫、川端祐司（記）

配付資料

資料 1 研究用原子炉の在り方検討小委員会 設置申請書（「総合工学委員会原子力安全に関する分科会小委員会の設置について」）

資料 2 研究用原子炉の在り方検討小委員会 委員名簿

資料 3 第 1 回研究用原子炉の在り方検討拡大準備会議事メモ案

資料 4 （案）提言「研究と産業に不可欠な中性子の供給と研究用原子炉の在り方」

資料 5 記録「研究炉の長期停止に伴う影響調査」

席上配布 JRR-3 の停止による影響調査報告

議事内容

（1）委員自己紹介

参加全委員による自己紹介が行われた。

（2）役員選出

上坂委員を委員長、村山委員及び川端委員を幹事とすることが了承された。

副委員長は、委員長を中心に継続して検討することとなった。

委員会後、永井委員に副委員長をお引き受けいただいた。

（3）「(案) 提言 研究と産業に不可欠な中性子の供給と研究用原子炉の在り方」について

柴田委員より、資料 4 「(案) 提言 研究と産業に不可欠な中性子の供給と研究用原子炉の在り方」についての概要説明があった。特に、最終版での変更点や概要についての説明があり、関連して意見交換が行われた。主な意見は次の通り。

- ・日本で一定程度の原子力発電を保持するならば、照射炉は必要であり、JMTR の停止は問題が大きいという観点は変わっていない。
- ・査読意見に対応するため、タイトルが大きく変化した。
- ・新規制対応のため、研究炉再開に時間がかかっており、研究教育への影響が大きい。今後の研究炉規制には、グレーデッドアプローチの考え方を適用する必要がある。

- ・グレーデッドアプローチについては、他の小委員会や原子力学会、さらには規制庁との議論が必要である。

- ・原子力学会では、研究炉の規制の在り方を検討中であり、具体的な議論を進める予定である。また、今後は核セキュリティや RI セキュリティに関する規制も問題になることが予想される。

（４）「記録 研究炉の長期停止に伴う影響調査」について

柴田委員より、資料５「記録 研究炉の長期停止に伴う影響調査」についての説明があった。主な内容は次の通り。

- ・この調査を行った際、JMTR ユーザーにアンケートが十分に行き届かなかったため、照射ユーザーからの回答で欠けている部分が多い。

- ・再度、JMTR 及び常陽ユーザーに対して調査を行い、再調査結果を含めた改訂版を作成する予定。

（５）席上配布資料「JRR-3 の停止による影響調査報告」について

柴山委員より、席上配布資料「JRR-3 の停止による影響調査報告」についての説明があり、意見交換が行われた。主な意見は次の通り。

- ・JRR-3 に関しては、「高度化」については書き込まれているが、「早期の再稼働」の観点も重要である。これまで早期再稼働は当然のこととして議論されてきたが、予断を許さない状況もあり、その観点からのサポートも必要となろう。

- ・研究炉建設は予算サイズが大きいが、学会会議のマスタープランに申請することを考えるべきではないか。そのためのワーキンググループを立ち上げ、具体的な内容の検討をすべき。その際には、利用できる研究炉が国内に無い期間についての対応も検討する必要がある。

- ・研究炉規制に対するグレーデッドアプローチについてのワーキンググループの立ち上げも検討すべきではないか。

（６）その他

グレーデッドアプローチについては、WG を立ち上げて検討することが望ましいということになり、上坂委員長、川端幹事、村山幹事を中心に WG のメンバーを含めて検討することになった。

大型計画について、大規模計画の可能性を検討することが必要ということになり、上坂委員長を中心に WG を検討することになった。

以上